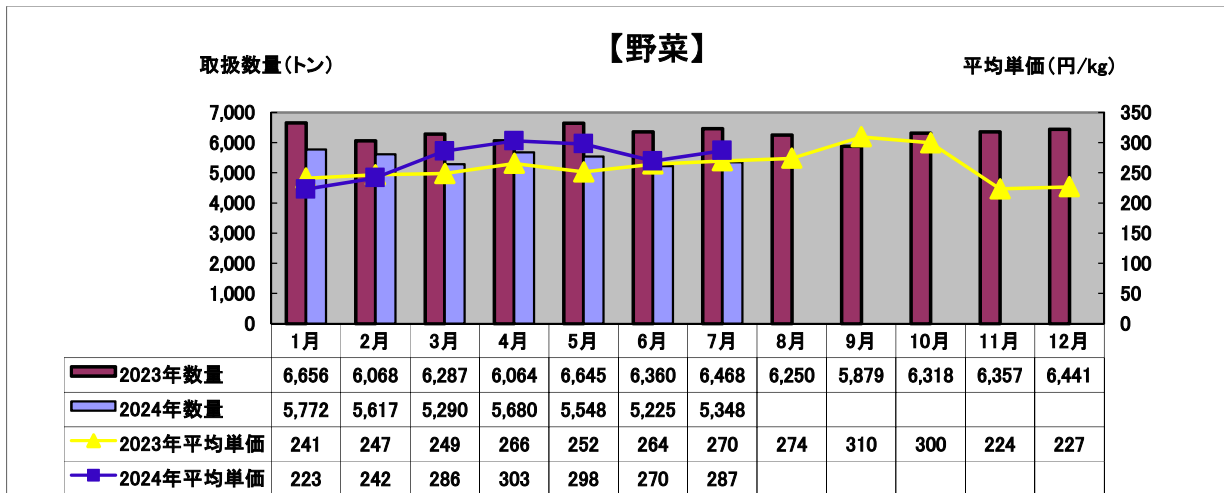
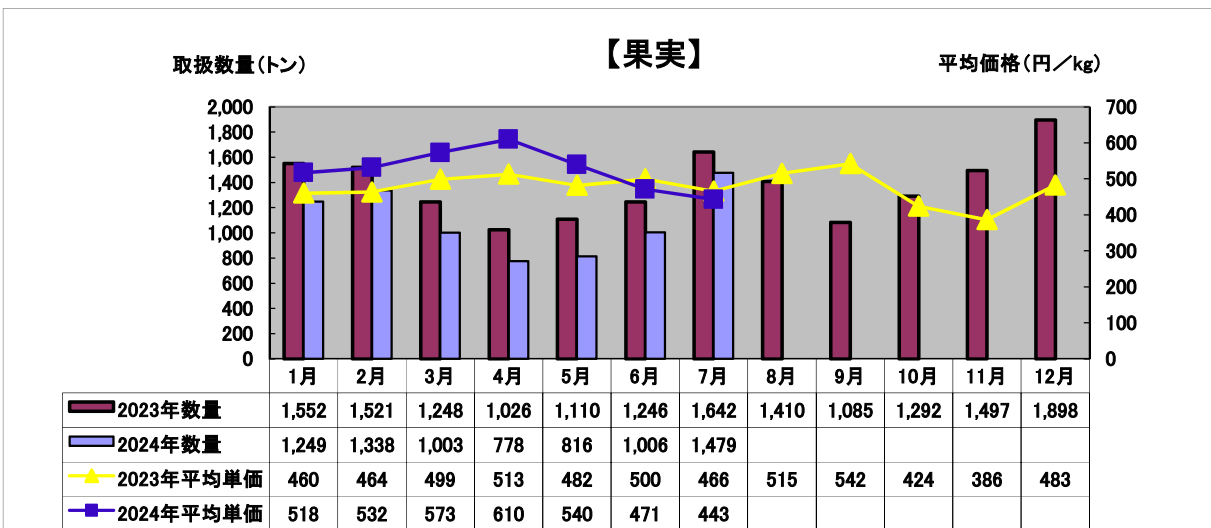


令和6年(2024年)7月 青果部種類別市況



7月の野菜類は、昨年より早い全国的な猛暑の影響により、九州産、関東産の切り上りが早く、また夏秋産地の作柄も傷みや小玉化等で数量は減少し、前年に比べ平均単価は高く推移しました。

前年比数量 83%、単価 106%で終了しました。



7月の果実類は、開花が昨年よりも遅いにも関わらず気温が高く推移したためほぼ前年並みの出荷となったが、生育期間も短いため小玉傾向となり、数量はやや減少しました。単価についてはやや低く推移しました。

前年比数量 90%、単価 95%で終了しました。